

# 栃木市にある貴重なたからもの

この古いたからものたちは、意外と身近なところにあります。これまでに学んできた、歴史を感じられるのではないのでしょうか。これからも大切に守っていききたいですね。



## ❖ 大慈寺相輪様(建造物)

現存する寺院としては栃木県内でも古いお寺、大慈寺にある仏塔です。815年に仏教僧・最澄が全国6か所に建てたものの1つですが、後に大火で消失。現在の仏塔は1725年に再建されたものです。高さは3.2m、直径80cmで、塔の中には法華経がおさめられました。



## ❖ 木の杖術(無形民俗文化財)

木の杖術は都賀地域木地区の祭礼で、地元の人々によって長い間伝えられてきました。2年に一度、木八幡宮の氏子が「小天狗流杖術」を社に奉納し、杖と太刀の打ち合いの演舞が行われます。中学校の文化祭で生徒による杖術の発表があるなど、現在も伝え広められています。



## ❖ とちぎの山車

1874年に倭町三丁目が東京から、泉町が宇都宮から山車を買ひ、お祭りに出したことがきっかけとなり、広まりました。中でも万町一～三丁目、倭町二・三丁目、室町、大町にある山車は、江戸時代から明治時代に作られたもので、高さを調節でき、華やかな飾りや衣装がついています。他にも泉町の山車、嘉右衛門町の山車、倭町一丁目の獅子頭が受け継がれて、現在のお祭りが行われています。



## ❖ 岩船山高勝寺(建造物)

岩船山は死者の魂が集まる場所と言われ、関東の一大霊場として古くから人々に信じてこられました。現在でも子授け、子育て、安産祈願に多くの方が訪れます。また境内にある江戸時代中期に建立された三重塔や山門は、県内でもすぐれた建物として評価されています。